

## 見出し語とランクについて



関山健治

### ■ はじめに

『ベーシックジーニアス英和辞典』(BG)などの初級学習者向け英和辞典に対して、数字だけを見て、「収録語数が少ないから大学受験には対応できない」という先入観を持つ者も多い。今回の改訂で、筆者は、収録語や重要度ランクの見直しを中心に担当したが、初學者向け辞典という立場をふまつつも、英語が苦手な高校生を中心に、中学上級生から英語学習を「再起動」させようと思っている社会人までの幅広い層の英語学習者が、ふだんの英語学習において必要十分な規模の語彙を収録した辞書でありたいと考えた。

### ■ 収録語彙の選定

筆者が運用している語彙表データベースをもとに、初版の収録語を一から見直し、必要に応じて大小様々なコーパスデータを参照しながら、次の3点を軸にして語彙の選定を行った。

#### A：日常生活語彙の増強

国内外の picture dictionary や児童英語教育向けの語彙表、小学生向け英語辞典の収録語などをもとにした語彙表データベースを独自に作成し、英語圏の子供は誰でも知っているのに、日本の英語学習者にはなじみの薄い語を追加収録した。これにより、ふだんの英語学習だけでなく、英語圏へのホームステイや英語の絵本を読む際など、より実践的な場面でも BG を活用していただきたい。

★新規収録語の例：stuffed animal, unicycle, arts and crafts, green pepper, back-to-school など

#### B：高校の定期試験や大学入試に必要な語の増強

高校生の日常学習や入試への対応は、学習英和辞典の基本である。「BG は易しめの辞書だから、やっぱり載っていないのか」と思われまいよう、現行の教科書や入試問題コーパスを用いて、検定教科書やセンター試験を中心とした最新の大学入試問題、受験用単語集を精査し、収録語の見直しを行った。とくに、「ベーシック単語ボード」(本誌 p. 8参照)でとりあげる表現は、高校の教科書で多く扱われているものを選んでおり、日常的な英語学習ですぐに役立つ辞書であることが実感できるだろう。また、従来は専門的な語とされていたが、最近の大学入試で出現頻度の高い時事的な語や、理系学部の入試で見られる基礎的な科学英語を新たに立項した。大学入試制度改革を見通し、外部試験にも対応していることは言うまでもない。これらの見直しにより、センター試験や英検準2級、2級の語彙問題や長文に出現する語(一部の固有名詞を除く)は、99%以上が BG に収録されるようになり、大学受験や資格試験対策としても安心して BG を使っていただけると言えよう。

★新規収録語の例：cognitive, empirical, placebo, embryonic, euthanasia, cardiovascular など

#### C：大学生や社会人の英語学習向け語彙の拡充

今回の改訂では、従来の初級英和辞典では手薄

になっていた大学の必修英語レベルの語や抽象語にも目を向け、英検準1級以上やTOEIC、TOEFLといった上級レベルの資格試験にも対応できることをめざした。闇雲に難語を載せるのではなく、G5のような上級英和辞典への橋渡しとして、資格試験の上位級で頻繁に出題されるフォーマルな語や、CLIL (Content and Language Integrated Learning) で必要となる基本的な学術語彙も積極的に収録した。

★新規収録語の例：agenda, cohort, paradigm, parameter, penchant, debacle, esoteric など

## ■ 重要度ランク表示の細分化と見直し

BG2では、ランク表示を初版の3段階(星2つ・1つ, 無印)から5段階(星4つ~1つ, 無印)に変更し、語彙表データベースや各種コーパスをもとにして、とくに初版で無印であった語を中心に、ランクを細分化した。これにより、学年やレベルに応じて、「自分にとってすぐに覚える必要がある語かどうか」を今まで以上にはっきり示すことができるようになった。それぞれのランクの詳細は以下の通りである。

### (1)\*\*\*\*：小・中学校レベルの語(約1200語)

英検5級~3級レベルの語で、中学校の検定教科書に出てくるような語である。高校入試に必要な語と考えてよいが、日常生活語彙など、中学校の英語教育であまり扱われなくても、英語圏では誰もが知っている語も多く含まれているので、児童英語教育に携わる先生方にも有用な語と言える。

### (2)\*\*\*：高校教科書レベル(約1600語)

英検3級~準2級レベルの語で、英語圏での日常生活語彙の一部も含まれる。卒業後の進路を問わず、すべての高校生が卒業までに身につけておきたいレベルの語である。

### (3)\*\*：標準的な大学入試レベル(約1400語)

英検準2級~2級レベルの語で、センター試験

をはじめとした一般的な大学入試に余裕を持って対応できる語である。一般入試で大学進学をめざす高校生は、専攻を問わず、卒業までにこのレベルの語までは習得しておきたい。

### (4)\*：難関入試、大学教養レベル(約2100語)

英検2級~準1級レベルの語で、難関大学の入試に対応できる語である。

なお、辞書のランク表示は、入試での出題頻度のみをもとにしたものでも、「生の英語」での頻度順位を忠実に示したものでもないということを強調しておきたい。従来の辞書で軽視されがちであった日常生活語彙に目を配るという観点から、入試にはあまり出なくても、英語の絵本によく出るような身近な語(giraffe, pencil, eraser など)には上位のランクをつけている。一方で、日本人英語学習者が積極的に使うべきではない俗語、卑語や、特定の分野に偏って出現する語などは、頻度に関係なく低いランクとなっている。データベースやコーパスに依存することなく、日本人の英語学習者が使う辞書という観点から、筆者を含め、複数の校閲者、編集者がすべての語のランクをチェックしていることは言うまでもない。

## おわりに

BGは、初版の頃から「ベーシック」であると同時に、「フレンドリー」な辞書であることをモットーとしてきた。本稿でふれる余裕はなかったが、今回の改訂では単に収録語数を増やすのではなく、日本人英語学習者が目にすることが少ないと思われる古風な語や使用域の限られる語を中心に、大幅な見直しを行った。これにより、英語の基本を学ぶ上で本当に必要な情報に今まで以上にスペースを割くことが可能となり、より user-friendly な辞書となったと言える。

(せきやま けんじ・中部大学准教授)